

Sumitomo Foundation News Vol.4

住友財団修復助成30年記念「文化財よ、永遠に」の開催にあたって

住友財団が国内、海外に所在する彫刻、絵画等の文化財の修復助成をはじめて、およそ30年になります。この間、修復助成によりよみがえった文化財は、私たちに多くの喜びと、感動を与えてきました。

文化は国の礎(いしずえ)であり、鑑(かがみ)であります。これを担う文化財は、いにしえより受け継がれ、いま光りを放ち、次の世へともたらされる、過去・現在・未来を飛翔し、これを紡ぐ翼であります。数々の文化財は豊かなところを育み、人類の営みに潤いとあざやかな彩りをもたらすものです。

本展覧会を通じてこうした、文化財を「守り」・「活かし」・「伝える」ための修復の大切さを感じとっていただき、その意義に目を向けていただければ幸甚に存じます。

開催時期：

泉屋博古館 (京都)
泉屋博古館分館 (東京)
九州国立博物館
東京国立博物館

2019/9/6 (金)～10/14 (月・祝)
2019/9/10 (火)～10/27 (日)
2019/9/10 (火)～11/4 (月・振休)
2019/10/1 (火)～12/1 (日)



泉屋博古館(京都)



泉屋博古館分館(東京)

主な活動内容 (2019年4月～7月) * (詳細紹介)

1. 4月、基礎科学研究助成・環境研究助成の募集開始 (応募:基礎科学11,234件、環境397件)
2. 6月、年次報告書2018発行
- * 3. 6月、第11回評議員会、第43回・44回理事会 開催
4. 7月、環境研究助成選考委員会、基礎科学研究助成選考委員会 開催
- * 5. 6～7月、海外出張(「日本関連研究助成」 6月は中国・ベトナム、7月はシンガポール・インドネシア)

環境研究助成について

～ この地球(ほし)に生まれ、この地球(ほし)に生きるために ～

【助成の背景】

環境問題は、人類が直面している最も深刻な課題のひとつです。限りある地球の資源と人類及び共存する生命体の生存のために必要な条件（環境）は日々損なわれています。温暖化、酸性雨、食料危機、人口問題、激甚災害等多くの問題が生じており、その原因の探究と解決策の模索が続けられています。環境問題の解決・改善のためには、多面的かつ地道なデータの収集と解析、実行可能な様々な対応策の検討・構築・実践が不可欠です。本助成は、そのための多角的な観点からのアプローチによる研究に支援を行うものです。

【助成の概要】

プログラムは、環境に関する研究全般を対象とする「一般研究」と、特定の課題の解決に資する「課題研究」に分かれています。

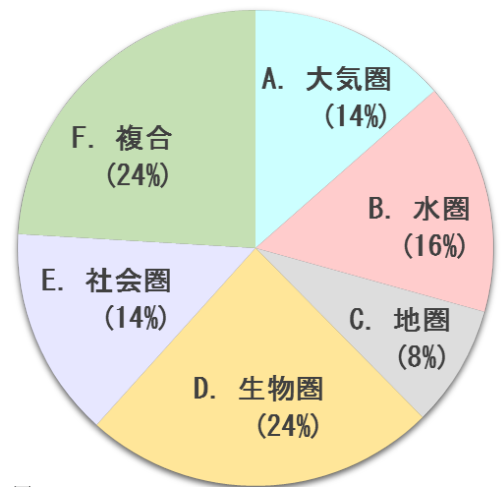
募集は公募により毎年4月から6月に行い、2回の選考委員会を経て、10月の理事会で助成対象先を決定します。助成金総額は1億円（内課題研究が2,500万円）（2018年度）です。

【過去の採択事例】（2016～2018年度）

一般研究における研究分野別の採択例は、以下の通りです。

- A. 大気圏（気象等、大気に関連する研究）
「積乱雲のエアロゾル依存性－温暖化すると集中豪雨は増えるのか？」
慶應義塾大学・講師・宮本佳明
- B. 水圏（海洋、河川、湖沼等、水に関連する研究）
「東京湾全体の長期観測データの整備と湾内の貧酸素化改善への応用」
東京海洋大学・助教・鋤柄千穂
- C. 地圏（地学等地球の地面に関連する研究）
「農耕地におけるマイクロプラスチックの動態解明」
石川県立大学・講師・勝見尚也
- D. 生物圏（生態学等、地球上の生物に関連する研究）
「島嶼におけるノネコ問題の実態解明：御蔵島と徳之島における希少種への影響評価」
森林総合研究所・主任研究員・亘 悠哉
- E. 社会圏（自然科学以外の環境に関する人文・社会科学の観点による研究）
「人権を基盤としたアプローチによる原子力災害対策の分析に関する研究」
金沢大学・准教授・棟居徳子
- F. 複合（学際的研究）
「熱環境の緩和と風の道を活かしたアジアモンスーン地域独自の環境計画への応用」
東京農業大学・准教授・入江彰昭

分野別 採択状況
(2016年度～2018年度)



評議員会・理事会開催



T V放映ビデオを視聴する評議員、役員

6月6日（木）に第11回評議員会、第43・44回理事会が開催され、評議員19名（総数24名）、理事9名（総数9名）、監事3名が出席しました。

住友財団では、定時評議員会は年1回、定例理事会は年3回開催しています。今回の会議では、新任評議員の選任、理事・監事の改選が決議され、平成30年度の事業報告並びに決算報告が行われました。

なお、会議終了後、今秋開催予定の展覧会「文化財よ、永遠に」を紹介したT V番組の録画映像を流しました。

アジア諸国における日本関連研究助成

海外出張

【出張の狙い】

- 「アジア諸国における日本関連研究助成」プログラムは、アジアの研究者に日本に関連するテーマで研究してもらうことで、日本を正しく理解してもらい、近隣諸国との相互理解、相互信頼関係の構築に寄与することを目指しています。このため出張はプログラムの応募勸奨、過去の助成者の研究進捗状況の把握、プログラムに関する意見交換を主としますが、当該国の日本研究の現状や研究助成の実態把握、各国の政治・経済・社会の現状把握と共に、世界情勢の変化の中でのアジア各国、並びに日本の在り方にも注目しています。
- 研究テーマは、日本の調査研究だけでなく、アジア各国の課題と日本の役割、グローバルな情勢変化における各国と日本の変容・相互関係の理解並びに日本の在り方の検討、両国間の相互理解・信頼関係構築のための条件の把握、日本が各国に貢献すべき事柄の検証と具体案の策定等へと拡がりつつあります。

【中国、ベトナム出張の概要】

1. 中国出張

出張期間 : 6月9日～15日
出張先 : 天津、北京、長春
主な訪問先 : 吉林大学、清華大学、
中国社会科学院、
南開大学、北京大学、
北京外国語大学



北京大学にて

2. ベトナム出張

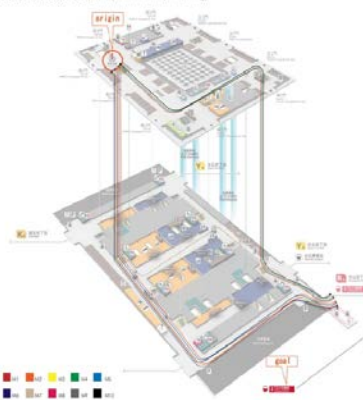
出張期間 : 6月9日～19日
出張先 : ハノイ、フエ、ダナン、カントー、ホーチミン
主な訪問先 : ハノイ工科大学、フエ大学、ダナン大学、
ベトナム国家大学ホーチミン



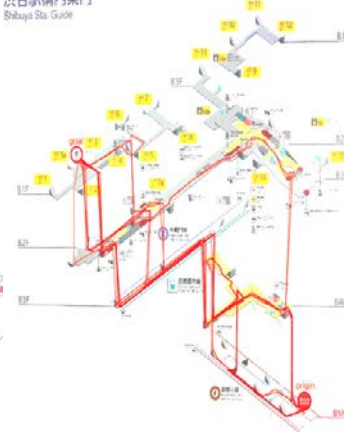
を流れるフオン川（香江）
ベトナムの古都フエ

～ 過去の研究成果事例 ～

受測者自行規劃路線圖 (before wayfinding)



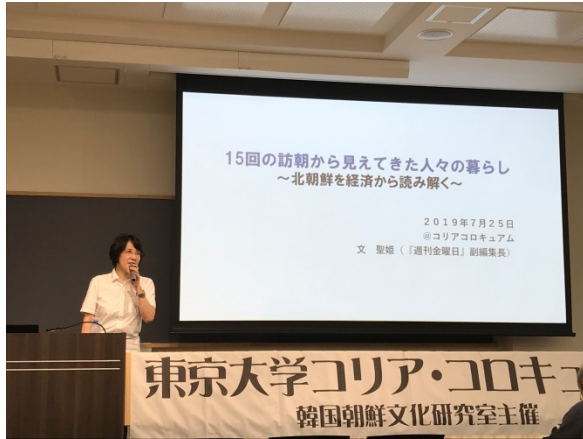
渋谷駅構内案内
Shibuya Sta. Guide



研究テーマ : 観光地図の理解に関する台日文化差の比較研究
研究者 : 台北大学 鄭孟淙准教授
概要 : 台湾の駅構内案内マップと東京の渋谷駅のそれと比較した地図認識調査により、日本から台湾への観光客の観光地図の改善を目的とする。
台湾の観光産業への寄与と両国の交流推進を目的とする研究。

研究テーマ : 学校での防災教育が地域社会での災害リスク減少に及ぼす影響
研究者 : インドネシア大学 ナディア・ヨファニ教員
概要 : 日本とインドネシアの防災教育の比較及び、防災教育を受けた関係者の意識変化を研究するもの。
今後の同国での災害対策の一助とする。

その他助成



講演会の様子（2019年7月）

住友財団の助成には、公募による助成プログラムの他に、非公募で助成しているものがあります。これは、①緊急を要するもの（震災復興支援）、②既存のプログラムと関連するもの（国際生物学賞への助成）、③将来のプログラム展開上必要なもの（福祉・教育関連分野への助成）で、時代の要請によるものや将来に向けての必要な支援を実施しています。

過去には、「アフリカのNGOとのネットワーク強化のための現地調査」、「コンゴ難民への巡回診療事業」、「ベトナムにおける天文学の研究・教育振興計画」等の案件について助成してきました。

「アジア諸国における日本関連研究助成プログラム」と関連した、「その他助成」の一例として、東京大学 コリア・コロキウムへの助成があります。これは、朝鮮半島及びその周辺地域に関する専門家を招いて行う連続公開講座で、当該地域の社会・文化・政治・経済等に関する生の情報を提供し、理解を深めるものです。

今年度も5回の開催が予定され、最近の日韓関係や北朝鮮問題などのテーマが取り上げられる予定です。

国立国会図書館へ書籍寄贈

【寄贈の背景】

当財団では研究成果として助成対象者が発刊した論文・書籍などを保管をしてきましたが、2016年度より、日本語、英語以外の特殊言語による書籍について一部、国立国会図書館に寄贈することに致しました。今年度はさらに海外文化財修復事業助成プログラムに係る図録等の寄贈も始めました。

これらは国立国会図書館が所蔵していない貴重な書籍であり、同図書館への寄贈を通じ広く一般に共有してもらうことで多くの方に役立ててもらうことを目的とするものです。



東アジア・東南アジア諸国の研究者発刊書籍



図録（「南京博物館珍藏系列」等）